

都学歯 歯 広報

目次

●第48回東京都学校歯科保健研究大会	2
●平成26年度「東京都学校歯科保健優良校（園）表彰の応募」と「歯の作文募集」に関するご協力をお願い	5
●最近、気になること その3	6
●食物アレルギー	7
●地区学校歯科医会からのメッセージ	澤田 章司
●北学校歯科医会／浅草学校歯科医会	10
●地区ニュース 葛飾／世田谷／杉並	9
●トピックス 健康づくりフォーラム／平成25年度学校保健（学校歯科医）研修会／平成25年度学校歯科医基礎研修会／第2回臨時代議員会	10
／平成25年度学術全体委員会	12
●会務報告／計報	12

TOGAKUSHI KOHO



都内発祥地シリーズ ㉔

『都市型保健所発祥の地』

1935（昭和10）年、東京市特別衛生地区保健館として誕生。関東大震災直後に米国ロックフェラー財団から災害地復興援助として、公衆衛生専門家の育成、訓練機関の設立についての提案があり、1937（昭和12）年、東大医科研の敷地内に公衆衛生院、京橋区に都市保健館、所沢に農村保健館を建設して上記財団から日本に寄付された。都市保健館は都市住民の健康指導・相談センターとして保健所のモデル的な役割を果たした。1937年に保健所法が制定されて京橋保健所となり、のち中央区中央保健所となって現在に至っている。

（所在地 中央区明石町）

写真と文 関根正行

一般社団法人 東京都学校歯科医会

〒102 東京都千代田区九段北4-1-20

-0073 TEL. 03-3261-1675

FAX. 03-3222-6528

<http://www.tasd.or.jp>

E-mail tasd@tasd.or.jp

発行人／鈴木 博

印刷／一世印刷株式会社

109

2014. 3

第48回

東京都学校歯科保健研究大会



川本 強 会長挨拶



下村博文 文部科学大臣
教育再生担当大臣
東京オリンピック・パラリンピック担当大臣



東京都教育委員会
教育長（代理）
前田 哲氏



東京都学校保健会
会長（代理）
正木忠明氏



日本学校歯科医会
会長
清水恵太氏



東京都歯科医師会
会長
高橋哲夫氏



東京都歯科医師連盟
会長
高橋英登氏



主催者席



来賓席



司会
濱田麻里さんと鈴木 博 専務理事



開会のことば
由井 孝 副会長



閉会のことば
小嶋 憲 副会長

日 時 平成26年2月27日（木）
14時

場 所 文京シビックホール
大ホール



開会式



学校歯科保健優良校表彰
都立赤羽商業高校



30年勤続表彰代表
矢作 稔氏



学校歯科保健功労者表彰代表
石井二郎氏



歯の優秀作文表彰



歯の優秀作文発表



講 評
千代田区立小学校国語教育研究部長
額賀 聡氏



優秀作文の朗読をする
足立区立洲江小6年 藤沼香奈さん（左）と
世田谷区立玉川中2年 町塚日向子さん（右）



熱心な人々で埋った客席





特別講演「雅楽のこころ 音楽のちから」雅楽師 東儀秀樹氏

奈良時代から1400年つづく雅楽師・東儀家の秀樹氏は、笙（しょう）・簫（ひちりき）・龍笛（りゅうてき）の実演を交えての熱演で観衆を魅了

実行委員の奮闘



開会前の打ち合わせ



来賓受付



学校歯科保健優良校表彰状の受け渡しには、学校名を間違わぬよう気を遣う



膨大な量の資料や記念品も流れ作業で手際よく袋詰めが進められていく



数々の受賞に輝く都立杉並高校・吹奏楽部のパフォーマンス

懇親会 スカイホール



北村晴彦氏の発声で乾杯



平成26年度 「東京都学校歯科保健優良校（園）表彰の応募」と 「歯の作文募集」に関するご協力をお願い

東京都学校歯科医会では事業の一環として、毎年、幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象とした「学校歯科保健優良校（園）」を募集しております。また、小学校・中学校を対象とした「歯の作文」の募集もしております。

学校歯科保健優良校（園）表彰は、毎年春に行われる定期健康診断の結果や学校（園）歯科保健の活動状況を調査票に記入し、東京都学校歯科医会に送っていただきます。送られた調査票を東京都学校歯科医会の審査委員会において、学校（園）歯科保健活動が各学校（園）でどのように取り組まれ、幼児、児童、生徒の歯・口の健康づくりがどのように実践されているかを審査いたします。審査につきましては、う蝕処置率よりも学校（園）歯科保健の活動状況の評価に重点を置くようにしております。また、各学校（園）の学校歯科医の活動内容も評価の対象になる部分があります。

毎年多数の学校（園）に応募していただき、前年度は630校（園）の応募をいただきました。優良校（園）は東京都学校歯科保健研究大会で表彰させていただいております。

なお、日本学校歯科医会では幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校を対象に全日本学校歯科保健優良校表彰を行っております。東京都学校歯科医会では、応募校（園）の中から特に優れた6校（園）を選出し、日本学校歯科医会へ推薦いたします。

この事業の趣旨をご理解いただき、多くの学校（園）が応募されますよう各学校歯科医の先生方のご協力を切にお願い申し上げます。

また、「歯の作文」の応募につきましては、学校歯科保健優良校（園）表彰の趣旨と同じく子どもたちの歯・口の健康づくり育成事業の一環としておこなっております。対象学年は小学校では5年、6年、中学校では全学年となっております。

過去の作文の応募作品数は以下のようにっております。

	小学校	中学校	合計
平成21年度	377	118	495
平成22年度	448	100	548
平成23年度	484	149	633
平成24年度	409	196	605
平成25年度	404	226	630

応募作品は東京都学校歯科医会の審査委員会によって一次審査され、専門家の二次審査へとまわされます。これらの審査を経て選別された優秀作品の中から、小学校部門より一作品、中学校部門より一作品に絞られ、最優秀作品となります。そして、最優秀作品は毎年2月に開催されます東京都学校歯科保健研究大会の席上において、ご本人に朗読していただきます。また、優秀作品は本会ホームページにも掲載させていただきます。

この事業も子どもたちの歯・口の健康づくりに対する意識を高める手段といたしましては、これに優るものではありません。

事業内容を充分にご理解いただき、各学校歯科医の先生方におかれましては、担当されている学校（園）を訪問する際に、ご協力いただけるよう校長（園長）先生、養護教諭等に是非お願いしていただけるよう希望いたします。

「学校歯科保健優良校（園）表彰」応募について

● 応募締切

6月末日までに東京都学校歯科医会へご提出ください。

『歯の作文』募集について

● 対象学年

小学校5年、6年、中学校全学年

● 募集締切

地区教育委員会は、地区学校歯科医会に7月中旬までにお届けください。地区学校歯科医会は、7月末日までに東京都学校歯科医会へご提出ください。

食物アレルギー



学術担当理事 澤田 章司

あきる野市立前田小学校の学校保健委員会では、全教職員と呼び掛けに参加した保護者を対象に『食物アレルギー』をテーマに講演会を開催しました。アレルギーの発生メカニズムや症状などを説明し、また、発症時の対応として使用されるアナフィラキシー補助治療剤であるエピペン（ファイザー）についての説明と実技も行いました。当日は、当院に不測の事態に備えてあるエピペンと練習用トレーナーを持参し、実物がどういう物かを見て頂き、実際に参加者全員で打ち方の練習を体験して貰いました。参加者の反応は、アレルギーについて色々を知ることができ、エピペンの扱い方も分かり非常に良かったと好評でした。また、これを受けてあきる野市の全体の小・中学校の校長と養護教諭と各学校歯科医が集まる会議でも、同じ内容で講演を致しました。

今回、このような企画をした背景には、近年、食物アレルギーを持つ子どもが増えており、特に調布市の学校給食での死亡事例を含め、学校現場での事故が増加していることから、学校保健委員会では食物アレルギーについて学ばなければならぬと判断したからです。

それでは何故、食物アレルギーが近年、増加しているのでしょうか。食物アレルギーに詳しい千葉労災病院の河野陽一院長によると、日本人の食生活がこの半世紀で大きく変化したことが要因の一つで、コメなど植物性タンパク質の摂取量が減る一方、卵や牛乳といった動物性タンパク質の摂取量が大幅に増加し、さらに食品添加物の摂取量が格段に増えたことが原因と説明しています。外

食やコンビニの食品を多く摂るようになり、保存料や加工品が増えていることも一因とのことです。対策としては、素材を生かした食事、つまりかつての日本の食文化を取り戻すことが望ましいとした上で、環境問題を根本的、総合的に考えないといけないと指摘しています。

また、ベストセラーになった『食品の裏側』（安部司）によれば、一般的に日本人が摂取する添加物の量は、1日平均10g、年間4kgにも及び、食塩の摂取量と同程度とされています。例えば、コンビニのお弁当やサンドイッチの中には平均20種類もの添加物が入っているとのことですから驚きです。しかしながら、誰もがこれらを避けて通れなくなっている社会構造ですので、今後も食物アレルギーが増加することが懸念されるところで

折しも、高級ホテルやデパートでの食品偽造問題が世間を騒がし、安全な食に国民は関心を持ち始めました。次代を担う子ども達のためにも、学校保健では今後益々、食育が重視されて行くことは間違いありません。今年度、東京都学校歯科医会の学術研究委員会では、川本 強会長の肝煎りでズバリ『味覚』についての冊子を発行します。その中には、幼稚園児から成人までの大規模な味覚調査の結果や和食の重要性など豊富な内容となっておりますので、今後の食育の保健指導教材としてご活用して頂ければ幸甚です。間もなく発刊となりますので、乞うご期待下さい。

地区学校歯科医会からのメッセージ

北学校歯科医会

会長 百瀬 保

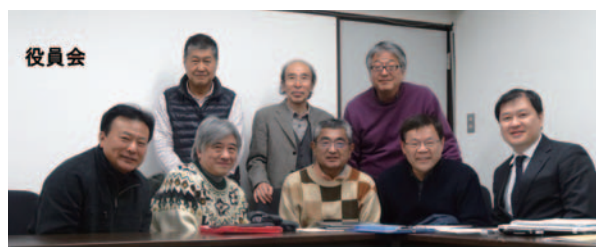
北学校歯科医会は昭和60年発刊の「東京都北歯科医師会50年史」によると、大正12年3月に6名の会員をもって王子学校歯科医会として設置された。昭和6年6月勅令144号で学校歯科医及び幼稚園歯科医令が制定公布され東京都北豊島、南足立郡学校歯科医会が設立された。そして昭和24年学校教育法の制定により現在の北学校歯科医会が設立された。

北区には滝野川学校歯科医会と北学校歯科医会がありそれぞれ独立した組織であるが、北区全体での委員会、養護教諭、PTAとの協議会、研修会、そして城北ブロック協議会などとの会において協力して活動している。

幼稚園5園、小学校27校、中学校9校、高等学校5校、特別支援学校2校にそれぞれ1名ずつ、48名の学校歯科医が担当している。平成25年度より北学校歯科医会は役員会と学術委員会を設け毎月交互に会を開いている。役員会は8名で構成され、行政との関連した事項を討議している。学術委員会は学術委員3名と役員3名の計6名で構成され、学術大会、研修会の企画や学校歯科保健活動に必要な事項を討議している。現在、来年度に向けて学校歯科健診後にPTAなどに配布する冊子を編集している。

年間の活動としては毎年6月に総会と北学校歯科医会大会を開き、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校担当の学校歯科医による学校保健活動の報告と発表を行っている。12月に学校歯科医会、北区教育委員会、養護教諭と三者で、合同会議を行いそれぞれの立場から意見交換をしている。2月に滝野川学校歯科医会と共同で北区学校保健協議会にて養護教諭とPTAを対象とし、主に外来講師を招き講演会を行っている。平成24年度はタニタ管理栄養士・塚越理恵子氏により、また今年度は学習院女子大学フードコンシャスネス非常勤講師・宮島則子氏により食育をテーマとした講演が行われた。また、来年度から歯・口の健康に関する図画・ポスターコンクールや歯の作文の表彰式を北学校歯科医会でも行う予定である。

学校歯科医は北歯科医師会各部会から次の学校歯科医が推薦され選出される。選任基準は1. 本



人の日常診療所が北歯科医師会の包括する地域内にあること 2. 概ね2年以上北歯科医師会会員として在籍していること 3. 学校歯科医会に入会すること（日本学校歯科医会、東京都学校歯科医会、北学校歯科医会） 4. 学校歯科医として研鑽を積み学校行事に積極的に参加すること ただし、上記の条件を満たさない場合は北学校歯科医会理事会に一任される。定年は75歳である。

以前は北学校歯科医会の主催する研修会などへの参加が任意であったが、あまりにも出席者が少なく都学歯からの連絡が伝達できないなど支障が出たため、出席を義務づけるようにした。3年前に入会された先生からは出席の義務が周知されたが、それ以前に学校歯科医となっていた先生の中には、基本的に学校歯科健康診断を行っていれば良いと考える先生が居り、当初は参加人数がなかなか増えなかったが、次第に活動の活発化に賛同される先生が増え、現在では学校歯科医48名中半数以上が参加されるまでになっている。

今までは北学校歯科医会の活動を会員に十分に伝えられなかったため、最近は北歯科医師会のホームページや会報に北学校歯科医会の活動報告を掲載している。

北学校歯科医会は児童生徒の歯科的な健康増進を図るため担当している学校歯科医が様々な機会を使って勉強することが必須であると考え。いかに日学歯、都学歯が頑張ってみても底辺の学校歯科医の情熱をもって学校保健活動を行わなければ、意味を持たない。そのためにも地区学校歯科医会役員会では、一般学校歯科医の多くの先生が集えるよう会合を内容の濃いものにするなど、全体のレベルアップを図る取り組みをしていくことが重要であると思う。

浅草学校歯科医会

会長 久保和彦

台東区は、浅草と台東区下谷の二つの歯科医師会で構成され、それに伴い学校歯科医会も名称も同様に二つの会が受け持っている。現在の浅草学校歯科医会については、歴代の先生方が築き上げてきた功績があってこそこのことで、まずは浅草学校歯科医会沿革についてお話をします。

浅草学校歯科が誕生し（歯科医師会五拾年略史より）、現在100周年を終えました。

浅草歯科医師会が初めて組織されて間もない大正年間に、時の会執行部が、学校歯科衛生の必要性に着想せられ、あらゆる犠牲と努力を払われて、遂に全国に魁て浅草区に学校歯科医を誕生させたと言う事、実は機を視るに敏、誠に適切な措置として、敬意と感謝を挙げる次第である。しかもその後歴代の歯科医師会長がたゆまぬ尽力を続け、常に全国をリードし乍ら其の発達に尽瘁せられ、我が国学校歯科の貴い基礎を築いた事は、年代的に視てもゆるがない事実であり、我が国の学校歯科史上永遠に燦然と輝く事である、と始まります。

大正2年（1913年）に浅草歯科懇和会と称した母体が誕生し、大正5年（1916年）に名称を浅草歯科医会と名称を変え設立されました。そして大正6年（1917年）浅草歯科医会が主体となり、学校歯科医制度が誕生しました。

役員が区長を訪問して小学児童の身体検査の際、歯牙と口腔検査は歯科医師を之に当てる様要望し、「歯科医師を補助医としての扱いでは協力出来ない」と申し入れ、「学校歯科嘱託医」という名称を得た。之は全国ではじめて出来た「学校歯科医」の辞令であり、その後区当局からの要望で各小学校に、歯科嘱託医を設置したが、之もまた全国の学校歯科医の魁となり学校歯科史の第一頁を飾っています。当時年棒八十円で別に浅草歯科医会から学童口腔衛生補助費として年額百円が出され、「う歯罹患率の統計表」を作成していた。大正6年6月4日、ムシ歯予防デーの実施、街頭歯科相談所開設（雷門にテント張り）、小学校の朝礼に歯科衛生講話、歯科衛生ポスター配布、歯科衛生映画宣伝等をこれより毎年行うこととなった。

大正13年（1924年）小学校に歯科施設をなす。小学校落成に当たり、区長、区議会長に面会して歯科器械寄付の申し入れを行い、許可を得た。之が区当局又は保護者会で小学校に歯科施設をする動機を作ることとなり、学校の衛生室に歯科用椅子、エンジン等応急処置及びアマルガム充填程度の出来る設備が出来た。以後、新築落成の都度更

に立派な歯科設備を保護者会で設置する様になり、遂に区内全小学校に設備された。之も日本全国ではじめての事である。

昭和4年（1929年）浅草学校歯科医会が創立された（15小学校、3高小学校）。この年十二月二十六日、東京府訓令として「小学校幼稚園及び青年訓練所ニ歯科医ヲ設置スルノ件」が發布された。

学校歯科医の選考に就ては、当時区長名を似て歯科医師会長に推薦方依頼あり、役員会を経て校長の希望も取り入れ出来得る限り、近隣の全員全部に希望者の申込みを受け、之を集計して抽籤その他の方々を加えて答申したとされる。なお学校歯科医の待遇に就ては、歴代会長が区と交渉して、年棒八十円から百円～百廿円と逐次増額せられ此の外、定期身体検査時には一日5円宛ての勤務手当も支給された。学校歯科医としての辞令も区嘱託から東京府嘱託として下附せられるように会長が府議会に陳情して実現した言う云う貴重な努力も払われている。

昭和6年「学校歯科医及び幼稚園歯科医令」が発令。昭和7年「学校歯科医職務規定」が制定され、学校歯科医ははじめて国家的に実現された。終戦直後焼き野原に点在する小学校に、数名の学校歯科医が数校兼務で毎週火木曜日に口腔検査や衛生講話などをして其任に当たった。そして昭和三十三年学校保健法が実施されるまでに至るが、その前後の期間を通して全国歯科医大会（昭和6年～）、全国学校保健大会（昭和25年～）、東京都学校保健大会（昭和29年～）、関東ブロック学校保健大会、六大都市学校保健協議会（昭和31年～）と毎年、以上の大会には浅草学校歯科医会会員は常に多数参加して、研究発表や要望事項を提案、又は学校保健の参考資料の収拾などして学童保健の研究に常に尽力し現在に至っている。そして現在、11小学校、3中学校、4高校で構成されている。平成23年に私が会長に任命され、新役員で会務を遂行することになった。翌年の24年には、今まで不備だった点、あやふやだった点、問題点を改め、より良い浅草学校歯科医会を次世代に繋げたく、浅草学校歯科医会会則の改定に踏み切った。会費の値下げ、総会日時の変更、全国大会への参加、台東区学校保健研究発表会等、山ずみされていた諸問題を全会員の賛同を得て、クリーンにシンプルにすることが出来た。

毎年、全会員参加の研修会を開き、会員のスキルアップと学校保健に役立つ資料の配布を行っています。また私達、浅草学校歯科校医と担当する学校の学校長、養護教諭を交えた、合同研修会を2年に1度、開催している。本年度はその年に当たり、私達会員、学校長、養護教諭とほぼ全員の出席が得られ、会員からの学術講演後、一校ずつ自校での取り組みや考えが述べられ、良いことはできる範囲で取り入れ実行しようと有意義な研修会を行っている。

葛飾区学校歯科医会の年間事業

葛 飾

今年度は、飯塚務会長以下執行部が発足しました。6月に『よい歯の集い』、学校歯科保健協議会を9月に開催。また、11月に保育士等、1月に養護教諭を対象とした指導者講習会を開催。1月には、外部講師による学術講演会を開催。2月に学校歯科医会全体会を開催。これらの機会を活かして行政、現場の養護教諭や保育士、会員に対して情報の発信をして学校歯科保



健活動の更なる向上に努めております。
(高橋裕幸)

第6回 城南七歯会学校歯科保健担当者連絡協議会

世田谷

この協議会も今回で6回を数えており、各学校歯科医会の活動状況を詳細に知ることができる様に、多岐に亘った設問に回答を頂いているアンケートを作製して、それを元に質疑応答をしたり、主幹となった学歯会がテーマを設けて発表したりして、今後の活動に役立てていくヒントを捜す絶好の機会となっています。当日(平成25年11月28日)は都学歯からも川本会長や由井副会長を含めて4名の理事者の御出席を頂き、総



勢41名での会となりました。年1回の会ですが、7地区で持ち回りをしながら情報交換を密にして、今後の学校歯科保健活動に生かしていきたいと思います。
(吉田慶造)

歯・口腔を清潔に保つことは国民の健康を推進する基本的要素
学校歯科健康診断と事後措置のための学習webソフトの紹介

杉 並

平成26年2月24日(月)、杉並区学校歯科医会研修会にて東京歯科大学衛生学講座 松久保 隆 主任教授をお迎えして、表題の講演がなされました。

様々な歯科口腔保健に関する長期的レビューを指示し、最近における傾向として、1)う蝕の急激な減少、2)口腔の健康は国民が健康でハイクオリティな生活を営む上で重要、3)乳幼児、学齢期における食育の推進は口腔保健状態に大きく関与、4)人口の高齢化に伴って歯周疾患の有病率が高率に推移、などがあることを解説された。そして、自宅でのセルフケ



アと歯科医院でのプロフェッショナルケアが相乗し、その結果として、う蝕や歯周病の予防になり、肥満・糖尿病・心疾患・呼吸器感染症の予防ともなる事を示された。また、歯学部学生教育で使用している検診学習webソフト及び、う蝕診査器具“QLF”が学校歯科医の検診基準の統一の一助にと紹介された。
(吉野勝久)

健康づくりフォーラム

平成26年1月18日(土)13時より、文化学園大学新都心キャンパスにおいて、標記フォーラムが開催された。開会・挨拶に続き、昭和大学医学部 今井孝成先生により、「学校における食物アレルギーの対応」という演題で講演された。昨年の痛ましい事故をふまえ、今後このような事故が起こらないようにいかに対処したらよいかまた家族とのコミュニケーションを密にとり給食に対応しなければならないと話された。



トピックス////

平成25年度 学校保健（学校歯科医）研修会

平成25年12月5日（木）10時より学校保健（学校歯科医）研修会が歯科医師会館1階大会議室で行われた。五十里東京都教育庁地域教育支援部歯科保健課長、井上東京都学校保健会副会長の挨拶の後、講演に入った。演題は以下のとおり。

- ① 「学校歯科医の職務について」
東京都教育庁 五十里歯科保健課長
- ② 「幼児・学童期における機能解剖学的基礎知識



－咀嚼・嚥下機能，味覚の獲得－
東京歯科大学 解剖学講座 阿部伸一教授

トピックス////

平成25年度 学校歯科医基礎研修会

平成25年12月5日（木）13時より平成25年度学校歯科医基礎研修会が歯科医師会館1階大会議室で行われた。長井理事の司会のもと川本東京都学校歯科医会会長、由井日本学校歯科医会副会長が挨拶の後、講演に入った。演題は以下のとおり。

- ① 「学校歯科保健の概念」 由井副会長
- ② 「学校歯科保健における保健教育」 渡邊理事
- ③ 「学校歯科保健における保健管理」 長沼理事
- ④ 「学校歯科保健における組織活動」 末高理事



トピックス////

第2回臨時代議員会

平成26年3月27日（木）13時より、第2回臨時代議員会が歯科医師会館1階大会議室で行われた。

鈴木専務理事の司会のもと、議長は練馬の望月兵衛代議員、副議長には麻布赤坂の藤野垣男代議員となり、由井副会長が開会を宣言した。橋本理事より点呼が行われ第2回臨時代議員会の成立がなされ、川本会長が再来年の全国学校歯科保健研究大会をぜひ東京で行いたいと挨拶をされた。次に来賓として、日本学校歯科医会清水恵太会長、東京都歯科医師会高橋哲夫会長、また東京都歯科医師連盟高橋英登会長が挨拶をされた。議事録署名人には葛飾の飯塚 務代議員、新宿の石川博基代議員が選出された。

次に渡邊理事が会務報告を行い、次に長沼理事より会計現況報告がなされた。ここで会長挨拶から会計現況報告までの質疑がなされ、杉並の小川 学代議員からの質問に答弁し承認された。

議事にはいり、

第1号議案 平成26年度事業計画

第2号議案 平成26年度収支予算

が一括上程され、予算決算特別委員会報告を粕江の松浦康文委員長が報告を行った。質疑にはいり、品川の丸山進一郎代議員より東京都学校歯科保健研究大会に



関する要望があった。

採決に入り、第1号議案、第2号議案ともに挙手多数で可決確定された。

最後に小嶋副会長が閉会を述べた。

平成25年度 学術全体委員会

平成26年3月25日（木）19時より歯科医師会館3階第1会議室で各地区の学術委員を対象に行われた。

まず、澤田理事による「食物アレルギー児童への対応としてのエピペン」についてとして食物アレルギーについて理解を深め、緊急時にエピペンを適切に使えるようにと説明された。実際にDVDを見ながら練習用エピペンを用いて大腿部外側に打つやり方を説明し、各自で行ってもらった。

次に、味覚についての冊子を長井理事が話された。学校歯科医の先生方に味覚に関する情報を発信し、学



校歯科保健で活用していただくことを目的に本冊子を作製したので、学校での講話にぜひ活用してほしいと説明された。

会 務 報 告

11/17（日）	図画・ポスターコンクール表彰式	会館	2/25（火）	第2回学術部会	会館
11/21（木）	学校歯科医基礎研修会予演会	会館	2/27（木）	第48回東京都学校歯科保健研究大会	文京シビック大ホール
	第8回事業部会（予演会終了後）	会館			
	多摩ブロック①地区連絡協議会	東久留米市民プラザホール	3/1（土）	法人設立30周年記念式典（東京都歯科衛生士会）	アルカディア市ヶ谷
11/28（木）	第2回選挙管理委員会	会館	3/5（水）	第8回会誌・広報委員会	会館
	第2回予算決算特別委員会	会館	3/6（木）	第184回代議員会（東京都歯科医師会）	会館
	第1回総務臨時委員会	会館		第71回学童歯みがき大会組織委員会	会館
	城南七歯会学校保健担当連絡協議会	世田谷区歯科医師会館	3/8（火）	第5回学術打合せ会	東京會館
12/5（木）	学校保健（学校歯科医）研修会	会館	3/10（月）	東京都歯科医師会附属歯科衛生士専門学校卒業式	会館
	学校歯科医基礎研修会	会館	3/13（木）	第13回理事会	会館
12/12（木）	第9回事業部会	会館		第9回会誌・広報委員会	会館
	東京都養護教諭研究会役員連絡会	会館	3/25（火）	第1回学術全体委員会	会館
	第1回東京都学校歯科保健推進校（園）支援事業	会館	3/26（水）	第84回総会（日本学校歯科医会）	会館
	選定校小連絡会	会館	3/27（木）	第2回臨時代議員会	会館
12/17（火）	第2回学術研究委員会	会館		第114回評議員会（東京都歯科医師連盟）	会館
12/19（木）	第10回理事会	会館			
	東京都教育委員会連絡協議会	ハイアットリージェンシー東京			
12/26（木）	第10回事業部会	会館			
	第2回総務臨時委員会	会館			
1/11（土）	賀詞交歓会（東京都学校薬剤師会）	ホテルグランパシフィック			
1/14（火）	新春懇談会（都歯）	ホテルグランドパレス			
1/16（木）	第11回理事会	会館			
	第2回参事会	会館			
1/18（土）	健康づくりフォーラム	文化学園大学			
1/23（木）	新春賀詞交歓会（都歯連盟）	ホテル椿山荘東京			
1/30（木）	都学歯大会大ホール下見	文京シビックホール			
	都学歯大会会場打合せ会	文京シビックホール			
	第11回事業部会	会館			
2/13（木）	第12回理事会	会館			
	第3回予算決算特別委員会	会館			
2/22（土）	創立60周年記念式典（調布市歯科医師会）	ハイアットリージェンシー東京			

【訃 報】

滝野川	山野井 修	（滝野川紅葉中）	H25. 12. 3逝去
蒲田	有福 裕徳	（都立つばさ総合高等学校）	H26. 1. 6逝去
江戸川	嘉藤 裕義	（南葛西小学校）	H26. 1. 12逝去
練馬	大町 邦夫	（都立大泉桜高等学校）	H26. 1. 27逝去
京橋	前野 長	（中央幼稚園、中央小学校）	H26. 2. 4逝去
足立	田村 朝英	（花畑北中）	H26. 3. 12逝去
豊島	山本 裕雄	（仰高小学校）	H26. 3. 22逝去
大森	宇澤 俊一	（馬込東中）	H26. 3. 23逝去

上記の先生がご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り致します。（敬称略）